

# 国際獣疫事務局（OIE）の概要

釘田 博文 先生

OIE 国際獣疫事務局アジア太平洋地域事務所 代表

日時：平成 25 年 12 月 10 日（火）

15:00 - 17:00

場所：日本生物科学研究所 管理棟 会議室 2・3

## 【要旨】

OIE は、1924年に28ヶ国の獣医関係者が集まり設立された国際機関で、本部はパリに置かれている。1930年に日本も国際条約により加盟し、現在加盟国は178ヶ国である。

OIE の主な活動は、動物（主として家畜と魚類）の疾病に関する情報の収集と伝達、防疫対策の立案、動物衛生に関連する科学的研究の推進等であり、動物衛生行政の国際化、加盟国獣医当局の強化等に力を注いでいる。

OIE は、1995年の世界貿易機関（WTO）の発足にあわせて、「衛生植物検疫措置の適用に関する協定（SPS 協定）」に基づく動物・動物製品に関する国際基準の設定機関として指定されたことから、国際貿易上、非常に重要な役割を担うこととなった。

具体的には、重要動物疾病に関する国際基準として、最新の科学的知見に基づき、動物疾病の蔓延を防止し、安全に動物や動物製品の貿易を行うための「衛生規約（コード）」と、疾病の診断方法や試薬・ワクチンの品質管理等について定めた「マニュアル」を作成している。

これらを策定するために、常設の「専門家委員会」や「ワーキンググループ」、特定分野の「アドホックグループ」などが設置されているほか、世界各地に、特定の動物疾病の制御に関する科学的知見、専門的見地からの助言等を提供する「リファレンス研究所」、動物疾病に関する特定の横断的分野（疫学、動物医薬品、食品安全など）の問題を取り扱う「コラボレーティングセンター」などの科学的ネットワークが構築されている。また、国際基準や OIE の運営については、各国政府代表が参加する OIE 総会の議決によって決定される。

そのほか、OIE の活動範囲は近年拡大してきており、WHO、FAO と連携した人獣共通感染症への取り組み（ワンヘルス）、薬剤耐性菌、動物福祉、畜産物の食品安全、野生動物、獣医学教育などの分野でも積極的な活動を行っている。



NIBS

主催

一般財団法人 日本生物科学研究所

<http://nibs.lin.gr.jp/>